

薬師如来

東寺が建造された時、崇拜の対象となる主な佛像は癒しと病の治癒の佛である薬師如来であった。薬師如来への信心は、6世紀にアジア大陸から佛教が伝来して以来、日本で最も初めに広まった。薬師如来への信心はおそらく理解がしやすかった。なぜなら、仏陀はあの世での救いだけでなく、この世での痛みや苦しみからの解放をももたらす存在であったからである。

薬師如来像は、1603年に佛師である康正（1534-1621）によって古い図像に基づいて制作された。1486年の火事の後、金堂が再建されたときに委託された。像は檜寄木造りで、漆と金箔で覆われている。後光のような薬師如来の頭部を取り囲むのは七仏薬師で、その佛性を表していると言われる。薬師如来の台座の周囲には、薬師如来の守護神の十二神将が並んでいる。薬師如来の両脇には、日光菩薩と月光菩薩が並んでいる。